

談天

DANTEN



うしき たつお
牛木 辰男

一般社団法人東北経済連合会 参与

未来のライフ・イノベーションの
コロナ後の大学像とは？
フロントランナーを目指して

日本の国立大学の多くは、第二次世界大戦後の1949年に制定された国立学校設置法に基づいて設置されました。新潟大学も、この時にそれまでの旧制新潟医科大学と旧制新潟高等学校に、師範学校、工業専門学校、農林専門学校が加わり再出発し、以来、教育と研究を通じて、人材育成と地域・社会の発展に貢献してきました。現在の新潟大学は、学生数約12,000人、教職員数約3,000人で、10学部5大学院研究科に加え、脳研究所、災害・復興科学研究所という2つの研究所、医歯学総合病院、5つの附属学校園からなる大規模総合大学です。

ところで、国立大学は2004年に国立大学法人となり、国から交付される運営費交付金が減額され、各大学独自の財政基盤づくりやガバナンスが求められるようになりました。その中で、教育と研究の質をどのように維持し、さらに高めていくかが常に大きな課題であり、また社会とのかかわりが一層求められています。さらに、新型コロナウイルス感染症のパンデミックは世界を大きく変えました。それまでも、少子高齢化やデジタル社会を見据えた変革が言われていましたが、コロナ禍はこうした社会変革に拍車をかけたといえるでしょう。この大きな時代の変革の中で大学はどうあるべきでしょうか？

私は、科学が社会の暮らしに大きな影響を与える現代において、大学の役割はより増しており、単に人材育成に留まらず、未来社会全体と密接にかかわることが強く期待されていると思います。こうした視点を意識し、新潟大学は2021年3月に「新潟大学将来ビジョン2030」を公表しました。策定にあたっては、学内の教職員、学生との対話はもちろんですが、県知事や市長を始めとした自治体の方々、さらに県内の企業の方々とも積極的に意見交換をさせていただきました。

出来上がったビジョンでは、直近の未来である2030年に向けて、新潟大学が果たすべきミッションを、「未来のライフ・イノベーションのフロントランナーとなる」と定められました。ここでいう「ライフ・イノベーション」とは、単に「医療・健康・福祉分野」に留まらず、21世紀を生きるわれわれの「生命」、「人生」、「生き方」、「社会の在り方」、「環境との関わり」と、それらの土台となる「地球」や「自然」についての新たな価値と意味を生み出すための革新を指しています。

新潟大学はこのミッションのもとで、ステークホルダーとの対話を大切に、総合大学の知を結集して多様な取り組みを進めます。そして、地域に密着しながら世界に羽ばたく大学として、社会に大きく貢献していきたいと願っています。

(新潟大学 学長・うしき たつお)